

各学部教授会、大学協議会の医民主化―市大

民主化圧殺をはねかえせ

昨日、大学協議会を延期し、医学部民主化綱領に関する討議が、全教授会において討議された。

この医民主化斗争は、医学部の腐敗しきった医局講座制とそれにもとづく学部自治に対する闘いであった。そしてこの闘いは医学部学生、青年医師連合、無給医の無期限スト、診療拒否闘の結果、全医学部の決定として獲得したものであった。しかしこの過程で学長、他学部教授会は、一貫して医学部に弾圧を加えてきた。とりわけ学生部委員は学生と大学協議会との会見のあつせを二重して拒否し、大学協議会の手先として、学生弾圧の機構として性格を露骨にあつた。そして今やこの過程で学生部委員の反動性、各学部教授会の反動性もよくわかった。

医学部民主化綱領が、医学部全構成員の承認のもとに決定され、大学協議会での承認決定の段階に至り、や一に、医民主化綱領は、各学部教授会、大学協議の根本的改進黨民主化をぬきには、認められなければならない。そのような民主化綱領がよしんば承認されたとしても、市大の全学的自治の

根本的改革、実態的改革をめには、空洞化され実態的に守りえはない事が明らかになっている。

従つてこの闘いは、全学部の民主化斗争として、全市大の民主化斗争として全学的規模で展開しなければならぬ。現時点において、大学協議会に対する医民主化綱領承認、決定させるための全学的斗争が必要とされている。

かかる状況において、一昨日、各学部はそれぞれ教授会を閉じ、その際明らかとなつたことは、や一に、学生は大学運営参加は認められなければならない。また、五文、それぞれの学部の腐敗せざる自らのためにも目をつき、医学部の問題ばかり考えたりしないとして全く秘密裏に事をばい、大学協議会にもちこもうとしていふことである。そして学生の反論に対しては、何ら答えることができなかった。ただ同じ言葉をくり返すのみであった。

我々は、今、この 然とした各教授会、大学協議会に対する闘いを全学的に闘いなければならない。

本日、大学協議会で医民主化綱領を承認させよう

全学友は、団交に結集せよ

本日の大学協議会は、医学部斗争―民主化綱領決定、各学部の討論の上に、市大としての結論をだすべきものとして存在している。だが、概にのべている如く、各学部教授会は、民主化綱領反対の立場で動きつつある。従つて、今日の協議会団交で戦わなければならないのは、現行市大が

制度の腐敗せざる状況を承認し、協議会にその解決の方向と市大全学の根本的改革（大学協議会、管理職相としての教授会と学生部解体―全大学和成員に対する参加による大学運営機構の確立）の方向を明確にさせ決定させることである。民主化斗争貫徹の二本柱を確立せよ。